ACTMANG との出会い／大野勝弘

エーヤワディーデルタ東部の小学校に植林したマングローブ防風林。ACTMANG との出会いは、森林再生の重要性と喜びを教えてくれた。

2002 年。マングローブのことを何も知らなかった私が、ミャンマーのエーヤワディーデルタをフィールドにマングローブを研究することになった。社会人入学が決まっていた大学院の研究室にヤンゴン大学講師の博士課程留学生がおり、彼と一緒にフィールド調査をすることを、指導教官に勧められたのがきっかけだ。

マングローブを知らないまま 4 月の入学を迎えるのも不安だった。また、当時から外国人の移動や宿泊に制限が多かったミャンマーでは、マングローブ林のある僻地への移動や寝泊まりは、難しそうだった。そんな時、同地でマングローブ植林を続けている向後さんのことを知り、お知恵を借りるために中野の事務所を訪ねたのが、ACTMANG とのご縁だ。事務所には須田さんがおられ、現地の事情を伺ったりマングローブの資料をいただいたりした。ありがたいことに、植林活動のベースキャンプでの宿泊や、現場移動の支援を、現地協働 NGO の FREDA に取り計らってもらえることになった。

ACTMANG は、オフィスビルではなく中野のマンションの一室にあった。それ自体は NGO にはよくあることだが、事務所へのリフォームはされておらず、住まいそのものなのが面白かった。玄関で靴を脱いで上がり、冷蔵庫や食器が置かれた台所の前を通って奥の襖を開けた居間の“会議室”には、座布団と小さなテーブルが置かれていた。風呂があり、押し入れには布団や寝袋もあることを、これまで何度となく訪れ泊まり知ることになった。須田さん以外のメンバーは特に“出勤”するわけではないという。打ち合わせや事務所の資料や機材が必要な時にやってくるようだった。事務所は、共同利用の家や合宿所のように感じられた。ACTMANG メンバーは団体のスタッフとか職員とかいうより、お互いが仲間という関係で事務所は仲間の集合場所なのだ。事務所の様子は今も変わっていない。メンバーも同じだ。

あれから 20 年。ACTMANG との出会いをきっかけに、FREDA のスタッフや現地の多くの村人たちとめぐり逢ってきた。マングローブの調査でお世話になり始まった彼らや村々との関係は、自分の今の活動にも繋がってきている。10 年前に小さなお金を使って、エーヤワディーデルタの小学校に、マングローブの防風林の植林を始めた。この活動も、FREDA スタッフや村のリーダーの協力と、ACTMANG のサポートなしには始められなかった。ACTMANG は、マングローブ植林のプロであるコアメンバーと、特技や専門が多彩な多くの協力メンバーが、その時々に力を合わせるスタイルで活動を展開している。自分はお手伝いするというより、助けてもらったり、ミャンマーの観光調査やベトナム出張同行などで、楽しませてもらったりしたことのほうが多かった気がする。

創設 30 周年を迎えた ACTMANG。各国で減り続けるマングローブの現状を思えば、ACTMANG の活動は、途に就いたばかりの 100 年事業なのかもしれない。メンバーと協力者の鎖が世代と国を超えてつながり、活動が受け継がれなければミッションは達成されないだろう。30 年後の仲間たちの奮闘につながるよう、微力ながら協力していきたい。

2022 年 1 月 10 日